

公文式本市場教室 火3~7時 木 2:30~6:30 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2019年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより 11月号

【公文式は「働く姿勢」に通じる力を育てる】

前回から公文式が育む力についてシリーズでお伝えしています。「公文式を導入している中学校」と、「公文式や他の民間教育を導入していない中学校」を対象にした研究では、学校の授業内容の習熟度を測る「学習習熟度」のテストで、中1の入学時点では公文式を導入していない中学校のほうが高かった得点も、中2・中3と上がるにつれて、公文式を導入している中学校のほうが上回るようになりました。「学習習熟度」の他にも、「処理力」「思考力」「修正力」という3つの能力において、伸びを示す結果が出たのです。そしてそれらの力は将来、子どもが大きくなった時に「働く姿勢」にも通じると共同研究者から評価されました。今回からこの3つの能力を1つずつ解説します。

1つ目の「処理力」とは、作業できる量とスピード、一定時間継続して作業ができるようになる力のことで、公文式の学習を通じてこれらが向上することがわかりました。共同研究者によると、この「処理力」は、「多くの作業を集中して着実に処理する姿勢」につながり、それは、将来仕事を遂行する場面で、仕事に対する「熱心さ」や「仕事への情熱」などにもつながっていくとのこと。

今回は2つ目の「思考力」についてお伝えします。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“個人別学習”

子どもたちは、それまでの環境、性格、素養、練習量などが一人ひとり違います。それが個性となってそれぞれバラエティ豊かな人間性ができていきます。学習においても、年齢が同じだという理由だけで学習内容のすべてを統一すると、ある子にとっては難しすぎて自信を失わせたり、他の子にとっては簡単すぎて退屈だというようなことがどうしても起こってきます。本当に身につく学習をさせるためには、その子にちょうど合った内容を考えてあげなければならないのです。子どもを意欲的に学習に取り組ませるためには、個人差や能力差に目を向けた、それぞれの子どもの立場に立った個人別の教育こそ必要です。公文式は、他と優劣を競わせるのではなく、あくまでその子どもを主人公として、個人別に学力を向上させて、一人ひとりの可能性をできる限り引き出していく教育法です。

2019年 11月の学習日

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 <small>文化の日</small>	4 <small>振替休日</small>	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23 <small>勤労感謝の日</small>
24	25	26	27	28	29	30

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

11月分の会費引き落としは10月28日(月)です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

11月16日(土)~11月30日(土)

無料体験学習日です。ご兄弟。ご近所さんを誘って来室ください。お待ちいたしています。

*ゆき子の一言コラム

本文に根拠を求めて解く力を伸ばす「読解」の有効な復習法は？

国語の復習、どんなふうにしていますか？特に、「読解」については、ほとんどのテストで、授業で読んだものとは違う素材文が取り上げられるため、やり方がつかみづらいかもしれませんね。今回は、「読解」の復習方法をご説明します。テスト前、漢字と知識問題だけおさらいして、「読解は出たとこ勝負!」と、臨んでいる人も少なくないでしょう。でも、読解の復習はしっかりやっていただくと、確実に点数につながっていきます。

・読解問題では受験生の経験値が問われる

読解問題では、文章や言葉にどれだけ触れてきたか、持っている知識を活用できるか、受験生の「経験値」が問われているといいでしょう。テストで初見の素材文が出されるのは、その経験値をみるためなのです。

1週間に十数冊も読んでしまうような読書家の受験生は圧倒的に有利です。でも、そんなお子さんはそう多くいません。ふだんから読書の大切さについてお話ししてはいますが、ほかの教科にも時間を割かなければならない受験生にとって、一定量以上は難しいでしょう。そこで、授業やテストで読んだ素材文を「読み返す=復習する」ことで、経験値につなげていただきたいと思います。文章の構造がわかり、解き方の技術や解答の仕方も身につくので、とても有効です。

では、授業の教材、テストの復習はどう取り組めばいいのでしょうか？いずれもおうちの方の手助けが欠かせません。授業の教材とテストの復習方法は？

〈授業の教材〉

授業では「読み方のコツ」「解き方のコツ」を教えます。その日の単元の学習テーマを確認し、何を習ってきたか思い出す程度で十分です。おうちの方が聞き役にまわり、「今日は何を習ってきたの?」と問いかけたり、対話したりしながら、学習内容を思い出させるといいでしょう。だいたい30分くらいで終わると思います。

〈テストの復習方法〉

大切なのは、「文章をていねいに読み返すこと」です。おうちの方も、ある程度内容を把握しておかれると、スムーズに進められます。テストでの読解問題の形式には、おもに(1)空欄補充問題(2)選択肢の問題(3)書き抜き問題(4)記述問題があります。どのケースでもお子さんと一緒にやっていただきたいのは、間違えた部分の解き直しです。

解答解説と自分の解答を照らし合わせながら、正解の根拠が本文のどこにあるのか探す作業がとても重要です。

(1)(2)なら、自分の解答はどこが違うのか、正解はなぜそれが正解となるのか、本文から根拠を探して決め手となる部分を探してください。(3)なら、正解部分が本文のどこにあるのか探して印をつけて、どうやって探せばよかったか確認してください。

(4)については、塾のテストでは採点が厳しめになるので、配点の半分くらいもらえていれば、よしとしましょう。

そのうえで、模範解答と自分の解答を突き合わせて、何が足りなかったのか、どこを読み間違えたのかを把握します。また、模範解答の文言は、本文のどこを引用したり言い換えたりしているのか、探しましょう。それを手がかりにしながら、書き直しをして仕上げます。

子どもたちが読解問題と向き合うとき、自分の思い込みやフィーリングで解きがちです。自分で解説を読み、本文に立ち戻って復習することで、本文に根拠を求めながら解く力が伸びていきます。テストの復習についてはじっくりやると1時間半1時間半くらいはかかると思います。

陥りがちな癖を明確にすることが大事

読解問題にも、解き方の定石がありますが、文章はさまざまな形で書かれていますから、解法を型どおりにあてはめようとしてもうまくいきません。柔軟に活用できるようになるために、授業で、教わったことやテストの復習をして気づいたこと、自分なりの反省点などを書き留めておくのもよいでしょう。以前、「自分だけのノート」を作っている生徒がいました。ノートには、「理由を聞かれていないのに、『から』をつけてしまった」「気持ちを表す言葉を必ず入れる」「『正しくないものを選べ』なのに正しいものを選んでしまった」など、よくやるミス、自分へのいましめやアドバイス、心配なことなどを、気持ちのおもむくままに書き付けていました。彼女は、国語がとても得意な生徒でした。ほかに、大きめのふせんにもメモして、教材に貼り付けておくやり方もあるでしょう。

文章を読むうえで、のやっけてしまいがちなミスを明確にして、次に改善していくことも、読解の復習といえます。少し忍耐のいる作業ですが、頑張ってくださいと思います。

①はきものはきちんとそろえよう！

②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！

③もちものには なまえ をかきましょう！

④でんわをかりたら かならず でんわ代10えんいれてください！

国語(読解)の復習のコツ

間違えた部分の解き直しが大切。

① 文章をていねいに読み返し、正解の根拠にあたろう

②自分の癖を洗い出し、次に生かそう教室での決まりごと。